

＜除草剤＞

※除草剤は、原則としてネギに直接かからないよう注意してください。

	適用雑草名	HRAC コード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
定植後	一年生雑草	3	ゴーゴーサン細粒剤F	4～6kg/10a 全面土壌散布	定植後(雑草発生前) (但し、定植10日後まで)	どちらか1回のみ使用 (両方使用できない)
		3	ゴーゴーサン乳剤30	200～300ml/10a 全面土壌散布 (散布液量70～100ℓ/10a)		
		3	クレマートU粒剤	4～6kg/10a 全面土壌散布	定植活着後(雑草発生前) (但し、定植10日後まで)	どちらか1回のみ使用 (両方使用できない)
		3	クレマート乳剤	200～400ml/10a 全面土壌散布 (散布液量100～150ℓ/10a)		
		5 15	サターンバアロ粒剤	4～5kg/10a 全面土壌散布	定植直後 (雑草発生始期まで)	1回
生育期	一年生雑草 (ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	3	トレファノサイド乳剤	200～300ml/10a 全面土壌散布 (散布液量100ℓ/10a)	定植後雑草発生前 (但し、収穫30日前まで)	2回以内
	一年生広葉雑草 (砂土では使用しない)	5	ロロックス(露地栽培のみ)	75～150g/10a 雑草茎葉散布又は全面散布 (散布液量100ℓ/10a)	定植30日後以降 中耕培土後 (但し、収穫30日前まで 雑草発生揃期)	1回
	一年生雑草	10	バスタ液剤	300～500ml/10a 雑草茎葉散布 (散布液量100～150ℓ/10a)	収穫前日まで (雑草生育期耕起前・定植前 又は畦間処理)	2回以内

※農薬散布の留意事項※

◆留意事項

- ハウス内での除草剤の使用は極力避けてください。
- 病害虫の発生状況・予察に留意しながら予防・発生初期防除を心がける。
薬剤抵抗性が発現しやすい薬剤の連用は避け、他の剤と使い分けてローテーション防除を行いましょ。
- 病害虫の温床となるものについては随時、適切に撤去する。軟腐病・腐敗病は、わずかな病斑でも出荷後急速に腐敗が進むので出荷に際しては病害株が混入しないように充分注意する。
- 適正な栽培密度とし、通風・作業性の改善を図る。
- 園地の適正な排水対策を行う
- 枯葉等を適正に管理する。
- みつばちへの配慮を行う。
- 散布量は、生育に応じて露地栽培100～300ℓ/10a(除草剤除く)、ハウス栽培10～30ℓ/30坪とする。
- 使用時期の「収穫前日まで」とは、薬剤散布を終了した時刻より24時間を経過するまで収穫できないことを示します。
- 展着剤は、アプローチBI、ミックスパワー、ワイドコート等を使用する。
肩掛け噴霧器の場合はワイドコートを推奨。
夏場の銅剤への展着剤の使用は、薬害の恐れがあるので注意する。
- 隣接している作物に薬剤が飛散しないように十分に注意すること。天気が良くても、風の強い日は散布しない。
- ドリフト軽減ノズルや防薬ネット等をできる限り使用する。
- 防除器具は使用后、通水で3回以上洗浄しましょう。さらに、前回使用後に十分洗浄したか確認し、
使用当日も薬剤調合前にもう一度通水し洗浄しましょう。
- 洗浄水は川や下水等に流さないようにしましょう。

＜展着剤＞

薬剤名	希釈倍数
アプローチBI	5ml/散布液10ℓ (2,000倍)
ミックスパワー	3.3ml/散布液10ℓ (3,000倍)
ワイドコート	1～3.3ml/散布液10ℓ (3,000～10,000倍)

◆害虫防除のポイント◆

【ローテーション防除の実施】

アザミウマ等の害虫は薬剤耐性を持ちやすいため、同じ剤や同じ系統(同じRACコード)の薬剤の連用は厳禁。薬剤の系統を変えながら防除する必要があります。薬剤の系統は、「ねぎ病害虫防除体系」をご参考下さい。

【散布例】

トクチオン乳剤→グレーシア乳剤→リーフガード顆粒水和剤→アグリメック・・・など